

三鷹市障がい者自立支援協議会（令和4年度第4回）議事要旨

日時：令和5年2月8日（水）18時30分～20時30分

場所：教育センター3階 大研修室

出席委員：大木幸子、岡田敏弘、新津健朗、百目鬼英弘、檜垣知子、菅原健、中野弘子、土屋秀雄、大野通子、瀧澤勤、加藤亮一、海老原恵理子、鶴田明子、工藤勇太、渡邊幸治、松井治幸、高橋久実子、春日里江

事務局：立仙障がい者支援課長、荻野障がい者相談支援担当課長、他 8名

傍聴者：なし

（順不同、敬称略）

<配布資料>

- ・席次表 (資料1)
- ・委員名簿 (資料2)
- ・主要事業の進捗状況について (資料3)
- ・専門部会のまとめ (資料4)
- ・障がい者等の生活と福祉実態調査について (別紙)
- ・第4回タイムスケジュール（予定）
- ・意見シート

1 主要事業の進捗状況について

○副会長

会長のご都合により司会進行を代役する。

主要事業の進捗状況について、事務局より説明願いたい。

○事務局

資料3及び別紙に基づき説明

○副会長

質問や意見はあるか。

A 委員から質問を預かっているので代読してよいか。

1、障がい者支援課からの資料では成果に絞った報告となっているが、課題解決という点での議論の場はないのか。計画にはビジョン、重点課題、解決への取り組み、チェックとして自立支援協議会が毎年度点検・評価を行うとなっていたので今後についての議論があるものだと思っていた。

2、障がい者支援課の中にいろんな係があるため、どこに相談するのがいいのかという段階でつまずいてしまう。

○事務局

事務局としても自立支援協議会は成果だけの報告ではなく、点検や評価を行う場と認識している。今の状況として第2期の計画の中の課題に対し、令和4年度に取り組んだ事業の進捗に

ついて報告している。この事業を継続するかどうか、またどう拡充していくか皆様で議論していただきたい。来期は、第3期の計画策定になるため、第2期の計画の評価、実績を示し、次の計画に結びつくような評価をしていただきたい。

どこに相談すればいいのかというご意見について、今回の実態調査の中でも上位に入っている。相談窓口が広がってきた分、どこにどのような質問をしたらよいか迷っている人が増えてきていると感じる。表示やPRの仕方も皆様と一緒に考えていきたい。

○ B委員

来期、新たな委員になった人は何も分からない状態で評価から始まるというのは難しいと思う。申し送りのような形でしっかりとつないでいきたいと思う。多くの話し合いを行ったが、実態調査の回収率がなぜ下がったか分かる範囲で教えていただきたい。

○ 事務局

来期、初めての委員が実態調査を含めた計画の改定から始まるのは難しいというのは事務局としても同意見である。可能であれば、今期の委員の皆様に来期も続けていただきたい。

実態調査の回収率についてはまだ分析途中ではあるが、新型コロナウイルスの影響で聞き取り等することが困難な状況だったこと、また、前回に比べ発送数が200程増えているため回収率は下がっているが回収の数としては前回とほぼ変わらない数が回収できていると認識している。

細かい分析に関しては次回報告したい。

○ 副会長

実態調査について、まさにPDCAサイクルだと思うので、分析・検証をお願いしたい。重点課題の調布基地跡地について、生活介護では強度な行動障がいを伴う方を対象としているが、短期入所は強度行動障害を要件として入っているのかどうか教えていただきたい。

○ 事務局

短期入所は今9名で募集している。9名が全員強度行動障害ではなく、軽度の方から重度の方まで幅広く受け入れる施設として検討している。

○ 副会長

3市で人数などの割り振りは決まっているのか。

○ 事務局

人数などの割り振りについては3市で協議中だが、開設予定である令和8年1月の状況に応じ3市で柔軟に対応していきたい。

○ 会長

推進事業の補聴器購入費について、12月末現在の申請者が7人で決定者3人なのは、残りの4人は審査中なのかどうなのかの状況を教えていただきたい。

障がい児の家庭支援事業で就労にも幅を広げてとのことだが、利用している方は主にどちらの目的で利用しているのかや、地域生活支援拠点事業について、支援につながっていない人への支援プランを推進していくうえでの課題等教えていただきたい。

アール・ブリュットについて、商店街や商工会との協力は素晴らしいが、展示場所の工夫等、もっと色々な取り組みがあるといいなと感じた。

コロナ対応について、三鷹市として今後の支援をどのように考えているのか分ければ教え

ていただきたい。

○ 事務局

補聴器購入費について、申請段階で支給要件、対象要件の審査をしており要件を満たしていれば受理し、受理した方については医師の意見書の提出をお願いしている。残りの4人については、医師の意見書の提出を待っている状況。

家庭支援事業について、現登録者については全戸に通知文を送り周知を行っているが、10月末までの実績を見ると就労支援目的ではあまり使用されていない。原因として、昨年度医ケア児を受け入れる児童発達支援事業所が開設され、レスパイト事業、家族支援事業を利用していた方数名が児童発達支援事業を利用しているため、通所事業、通所の利用している間に就労している可能性もある。今後さらなる周知を行うことで就労のニーズも出てくるのではないかと思う。

地域生活支援拠点事業について、「緊急時支援計画～わたしのあんしんプラン～」での実績は、令和3年度8名、令和4年度5名の計13名。13名のうち、サービスを使っている方が5名、障がい者手帳を所持しているものの地域における福祉的な支援につながっていない方については8名の方の計画を策定している。「緊急時支援計画～わたしのあんしんプラン～」の取り組みを進めていくうえで、地域の関係機関の方に対する周知、支援を必要としている方への支援がもれることなく、しっかり支援につなげていく体制づくり、支援の受け手の確保という点で拠点の機能を担う事業所が支援しやすい環境づくりが課題になってくる。来年度に向け、しっかりと検討し取り組みたい。

アール・ブリュットの取り組みについて、展示場所等の検討について様々な案が出てはいたが、今年度は初回ということもあり実現が難しかったが、来年度は商店街との連携もより広げ実施していきたい。

コロナ対応について、東京都の動向を見ながら三鷹市も合わせながらやっていく。市としては、コロナ対策については健康推進課が全庁的に取りまとめており、緊急対応方針、検証の報告書を出しているなのでその内容や国の対応を見ながら市としても動いていく予定。

○ 会長

コロナ対応については三鷹市としての方針も検討していただきたい。

家庭支援事業や地域生活支援拠点事業については、市内施設だけではなく特別支援学校や精神科医療機関のソーシャルワーカーの方々にも知っていただき当事者の方々にも情報が届くよう周知に力を入れていただきたい。

2 専門部会のまとめについて

○ 会長

専門部会のまとめについて各部門の部会長から説明願いたい。

○ 各部会長

資料4を使って説明

○ 副会長

質問や意見等あるか。

○ B委員

会議としての内容がすごく良いのかかわらず外に出ていないと感じた。

今年度、災害についてのイベントに参加し、当事者部会で行った持ち出し袋をパネルにしたものを展示したところ、地域の方から「こんな形でやっているんだ」や、「こんなすごいことをしているんだ」と評価や注目をしていただいたが、初めて知ったというような方がほとんどの印象だった。

また、市議会議員の方が自立支援協議会が開催している現状を知らず、自立支援協議会通信も見たことがないと意見をいただいた。

自立支援協議会の中だけでの情報共有になっているので、7期への課題の一つとしても外部に対しての情報発信を積極的に行ってほしいと感じた。

○ 会長

パネル展示について、市議会議員の方がすごく関心を持っていた。議員の方にも会議の開催案内を送るのがいいと思う。

自立支援協議会は部会が肝だと思っている。現場と当事者の方々が議論したり活動したりしていることをいかに見える化していくかが大切だと思う。すべての部会に当事者が参加していくなど、今後の部会の在り方をしっかり考えていきたい。

○ A委員

自分で作る安心防災帳を国立障害者リハビリテーション研究所の協力するワークショップで作成した。当事者部会での検証はまだできていないが、防災の役に立ってくるものだと思うので活用していただきたい。

3 その他

(1) 各委員から来期に向けて一言ずつ意見をいただく。

(2) 来年度の自立支援協議会は年6回の開催を予定している。日程は決まり次第早めに連絡する。